大阪故鉄、SBT認定取得

温室効果ガス48%削減

30年目標

関西地区鉄スクラップ大手の大阪故鉄（本社＝大阪市、矢追大祐社長）はこのほど、国際的な環境団体「SBTイニシアチブ」から温室効果ガス排出量削減目標に対するSBT（科学的根拠に基づく目標）認定を取得した。再生可能エネルギー由来の電力への切り替えなどにより、2030年に温室効果ガス（GHG）の排出量を20年比48・3%削減する目標を設定した。環境意識の高まりを受けて自社の環境対策を強化するとともに、鉄スクラップの需要家となる鉄鋼メーカーやスクラップ発生元など取引先へのPRにつなげたい考えだ。

電力を再生可能エネに

「SBTイニシアチブ」は、企業の気候変動対策などの開示を推進し世界の機関投資家が賛同するNPOのCDPのほか、世界資源研究所（WRI）、世界自然保護基金（WWF）、国連グローバル・コンパクト（UNGC）が2015年に共同で設立した。企業が掲げる温室効果ガス排出量削減目標が2015年パリ協定の「世界の気温上昇を、産業革命前と比較して2度を十分に下回る水準に抑え、1・5度に抑える努力を追求すること」という目標を達成するため科学的根拠に基づいている場合、SBT認定を受けることができる。

SCIENCE BASED TARGETS DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

SBT認定ロゴ

SBTイニシアチブの公式ホームページによると、日本におけるSBT認定企業は272社（7月11日時点）で鉄スクラップ専業は同社が初とみられる。

通常のSBTでは「スコープ1・2」以外の間接排出でサプライチェーン全体を含む「スコープ3」が温室効果ガス削減対象で、大阪故鉄が認定を受けた従業員500人未満・非子会社・独立系企業という条件を満たす中小企業を対象としたSBTでは「スコープ1・2」が対象となる。

大阪故鉄はSDGs（持続可能な開発目標）や脱炭素化の実現を目指した取り組みを強化しており、今年からは企業の温室効果ガス排出量を算定する国際基準「GHGプロトコル」に基づく測定を本格的に開始した。

温室効果ガス排出削減目標の達成に向け、同社では鉄スクラップ加工設備などに使用する電力を再生可能エネルギーにシフトする方針。社用車をハイブリッド車や電気自動車に順次切り替えるほか、構内作業車の燃料を軽油から天然ガス由来のGTLに切り替えるなど環境負荷低減に取り組む。

今後は「スコープ3」の測定やカーボンニュートラル関連の設備投資などを視野に入れており、矢追社長は「2030年のCO_2削減目標を達成し、将来的にはゼロカーボンスクラップに挑戦したい」と話す。

他社牽制力ランキング

21年住友電工が首位

2位日鉄、3位に神鋼

高耐食めっき 鋼板・軽量形鋼 明治鋼業 ☎03（3861）0131

JFE条鋼 製造所長に聞く

東部製造所 稲村 信二氏

排ガス分析し効率操炉

日刊産業新聞 22.7.14

ウエルディングショー開幕

溶接・接合技術 280社超がPR

溶接・接合技術と関連分野の最新製品、溶接加工システム技術を集めた溶接専門展、2022国際ウエルディングショー（主催＝日本溶接協会、産報出版）が13日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開幕し、神戸製鋼所、日鉄溶接工業などが出展している。

開幕式で粟飯原周二会長は「今回は前回を上回る280社を超え、史上最大規模の開催となった。今回は技術ショーに加え、ものづくりの楽しさ、人材育成の取り組みを紹介し、溶接接合技術の面白さ、力強さを産業界に広くアピールする内容となっている。18年ぶりに日本開催の国際溶接学会の年次大会、国際会議とコラボレーション企画を行うことが特長だ。将来のカーボンニュートラルの実現に向け、何をすべきか議論を深めてもらい

神戸製鋼所は建設機械向け溶接システムなど実演㊤、日鉄溶接工業は鉄骨製作現場溶接用ロボットを設置

高機能材と溶接サンプル展示 日本冶金・ナストーア

日本冶金の出展は初

定時総会

関西あららぎ会 厚みある営業を

日鉄建材の中川社長

祝辞を述べる民野会長

12日の埼玉豪雨 被害影響なし 普通鋼電炉メーカー

埼玉県内では12日夕から夜にかけて猛烈な雨が降ったが、同県内に置く普通鋼電炉メーカーの製造拠点に大きな被害はなく、操業への影響もなかった。

日本ゴルフ協会会長就任 東鉄・池谷相談役

東京製鉄の池谷正成相談役は6月24日付で、日本ゴルフ協会会長に就任した。

人事異動

イゲタサンライズパイプ（6月20日）

■役員

▽取締役＝木村雅一・管理部門統括（新任）

▽顧問（常務取締役）＝石井正樹（新任）

暑中お見舞い申し上げます